

はんさん

Vol.36
2008年10月

「はんさん」は「HotAnd New South Akita NPO」の頭文字から名付けた造語。「県南のNPOを情報でつなぐ」という思いをこめました。



9月13日(土)、湯沢市の稲川ふるさと館で、討論会「あなたも秋田を日本一住みよい県にしませんか?」が開催されました。オープニングのマジックショーと討論会での一コマ。(詳しい団体紹介は、本誌「活動ウォッチング」をご覧ください。)

トピック 地元に着する試み ～Uターン・Iターンを見据えて～

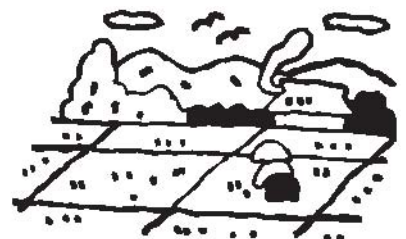
共に創る“まち” 「学び直し」で地域づくり おはなしゆーとびあ 2007
フラワーデザインフェスティバル 2008 in ユメリア

活動ウォッチング/クローズアップ/助成金情報/イベント情報/キャッチボール・ボード/コラム県南弁ゼミナール

地元に着する試み

Uターン・Iターンを見据えて

山々に広がる木々の葉のみずみずしさ、お米や野菜・果樹各種の豊富な収穫など自然環境に恵まれている一方、雇用の場の確保が難しく、人々とくに若者が地域を離れ高齢化が進んでいる秋田県南。今月は、その県南地域の魅力や良さを伝え、地元の人々が定着するための活動を取上げてみました。



仙北

地元の良さを見直し、
楽しみを地元に見出す！

NPOたざわ村の事務局長 中島和仁さんに聴きました。

田沢地区では2004年に地域の小中学校が生保内地区に統合されて地元で義務教育の学校がなくなり、2005年に田沢湖町が合併され仙北市になりました。「田沢地区は辺境として取り残されるのではないか」との懸念から、「行政頼みではなく、田沢地区のことはそこに住んでいる自分たちでやっていこう」とNPOたざわ村は、2006

年9月から任意団体として活動を始めました。主な活動としては、田沢幼稚園や子ども会の活動支援として、地域の他団体と協力しながら、幼稚園児の遊び場となるスキークの草の下刈や冬季の除雪ボランティア、子どもたちが使うボールの

清掃、田沢地区の運動会の手伝いなどを行っています。主催事業としては、村民文化祭やふるさと探検隊などを企画しました。今年10月19日（日）に計画している「ふるさと探検隊」では、亀石やお諸仏様など先達に教えてもらわないとわからない地元の名所を共に歩き、地域を眺める目を変えられればと期待しています。

2007年11月6日、仙北市からの委託で、田沢地区の空家物件調査を行いました。定住促進、玉川温泉利用者の宿泊提供になればと考え実施しましたが、「若者が来るのか？」「高齢者が移り住んできて、町が高齢者だけになったら仙北市にとっていいのだろうか」との意見もあ

りましたが、活性化に結びつくとの思いで取り組みました。空家31件を調査し、現在5件の情報が仙北市のホームページに掲載されています。都会からの移住だけでなく、田沢地区では独身者が多いので、独身者が結婚し家族と共に引き続き地元に着してもう一手立ても必要だと考えます。

田沢地区での事業の可能性を模索しながら、便利さのみを追い求めるのではなく、地元の良さを見つめ直して、この田沢地区で楽しみを見出す人々が増えることを願っています。



▶地域の人々と共に廃校になった学校のボール清掃をする様子

仙北市HPのURL <http://www.city.semboku.akita.jp/outline/egukite.htm>

湯 沢

湯沢に来て「楽しいー」遊び場を創っていききたい

衝撃in七夕実行委員会

会計の泉勇也さんに聴きました。

衝撃in七夕実行委員会は、湯沢出身で東京在住の音楽好きの仲間が集まって、2006年初めから活動を始めました。東京で年に5、6回、音楽イベントを開催しています。設立メンバーは、東京で生活しながらも「湯沢で仕事を起こしたい!」「地元で店をもちたい!」という強い思いを抱いています。湯沢は、小さな資本で何かを始めるにはいい規模の街です。「湯沢にいたい」という思いと、「湯沢には仕事がない」「湯沢での給料は低い」という現実とのギャップを考え、まず、湯沢のPRのために、今年の絵どうろう祭りに東京からのツアーを企画しました。お祭り期間中、中央公園の野外ステージでのダンス甲子園とグラフィティ(即興絵画)を楽しみ、夜は羽後町の温泉に宿泊し、角館への観光も盛り込みました。車中泊も含め3泊4日のツアーに、30人程の若者が参加しました。参加費や助成金だけでなく、募金活動もして収入源にしました。

今回初めての試みでしたが、湯沢や秋田県南での旅の楽しさが、参加者の東京での生活のエネルギーと

して継続してもらえればと、通年での企画を考えています。参加者を増やして、たくさんの人に湯沢で楽しんでもらえる場を創っていききたいです。それと同時に、地元の人には、もつと外へ出て、イベントや人が集まる場へ積極的に参加してほしいです。地元の人々が外に目を向け、離れた所で生活している人々が湯沢に関心を持って足を運ぶ、その相乗効果で、地元に着着する気風をつくっていききたいと強く思っています。



▶8月6日(水)東京からのツアー参加者が集う湯沢・野外特設会場

美 郷

秋田県南の環境を楽しもう!

町役場・商工観光交流課の高橋紀公子さんに聴きました。

美郷町では、2006年4月、「空き家等情報登録制度」を制定し、主にホームページ上などで町内の空き家情報を提供する事業を始めました。町内の人口が減って、空き家が目立つようになり、「人通りが少ない」と防犯上よくない、「空き家を管理しないと老朽化して危険だ」「人口減少に歯止めをかけたい」というねらいがあります。物件を提供する人と借り手(買手)の両方を募集して情報提供を始め、登録された物件についての現在までの成約件数は10件(住宅6件、店舗2件、空き地2件)となっています。物件提供者にとっては情報提供の場が、借り手にとっては情報収集の手段が増え、両者から「よかった!」との意見が聴かれます。

また、美郷町では、町外に10年以上上居住された方が美郷町で住宅を取得し住民登録した場合に、固定資産税の軽減がかかる最初の3年間のうちの1年分に相当する金額を「定住促進奨励金」として交付しています。(交付には要件があり、申請手続きが必要です。)

美郷町や秋田県南では、時間の流

れがゆっくりで、人の気持ちもゆったりしています。しかし積雪の多さや公共交通機関が少ないなどの不便な面もあります。移住を考えている方には、余裕をもって準備期間をとり、移住によるメリット・デメリットの両方についてよく考えてから実践していただくことをお勧めします。自分の住んでいる環境の中に楽しみを見つけないがら定着される方が増えることを期待しています。



▶定住希望者に配布するパンフレット

美郷町HPのURL: <http://www.town.misato.akita.jp/teijyuu/top.asp>

次回トピックのテーマ

子どもを守り育てるく地域で支える取り組みから

共に創る“まち”

～協働によるまちづくりにむけて～

暮らしやすい地域をつかっていくために、住民ひとりひとりが主体的に“まちづくり”に取り組んでいく時代をむかえています。地域に住んでいる人々、NPO やボランティア団体、町内会、PTA、企業、行政などが、異なった立場から協力し合って、心地よく活気のある“まち”を創っていくことが重要になってきます。そこで、このコーナーでは、県内や県外の事例を紹介しながら、協力し合って“まち”を創っていくために「何が大切か」を探っていきます。



▶テレビ会議システムの遠隔授業で講義を受ける受講生たち

「学び直し」で地域づくり

場所／秋田県仙北市総合情報センター
主催／法政大学地域研究センター、仙北市総務部企画政策課

仙北市は、昨年度から法政大学と事業協力協定を締結して、社会人を対象に地域づくりを担う人材育成に取り組んでいます。これは、文部科学省「社会人の学び直し」対策教育推進プログラムに委託事業に提案し、採択されたもので、遠隔地域(秋田県仙北市、石川県白山市、岐阜県飛騨市)に在住する社会人を対象に、テレビ会議システムによる遠隔授業を行うものです。地域資源を活用した地域づくりは、それを担う人材の育成が必須でありながら、そのノウハウがわからず、依然として従来通りの行政職員や商工会関係者など限られた人材で行われているのが現状です。この事業は、大学が蓄積した教育プログラムを

広く社会に提供し、それまで地域づくりに参加したことがない人なども気軽に参加できる環境を整え、地域づくりの専門性を高めていくことを目的としています。より幅の広い人材が社会参加するきっかけとなればということ、無理なく段階的にステップを上げられるように「体験プログラム」→「学習プログラム」→「応用プログラム」の3段階が用意されています。昨年度は、「地域づくりの必要性和楽しさ」に気づいていただくことを目的に、体験プログラムと、「地域づくりに必要な基礎知識の習得」のため、学習プログラムを実施しました。学習プログラムは、大学と3市(仙北市、白山市、飛騨市)を結んだ遠隔システムによる



◀地域づくり塾パンフレット

授業で、3市の間での意見交換や比較検討の中で自分たちの地域について再発見することができそうです。今年度は応用プログラムとして、「地域コミュニティ・NPO 育成プログラム」と「地域づくり専門家育成プログラム」を選択し、実施中で、地域づくりに必要な実践的な知識と手法を習得することを目的としています。今後は、これをきっかけに受講生との関係性を築きながら地域課題についての意見交換会などを開催し情報共有に取り組んでいきたいと思っています。

共に創る“まち”

おはなしグループは2007

読み聞かせグループによる研修とおはなし会から

場所／湯沢市文化会館 主催／みんなの森

湯沢を拠点に読み聞かせ活動を行っている「みんなの森」は、湯沢・雄勝の読み聞かせグループと協働で2007年11月10日(土)、研修とお話を兼ねて「おはなしゆーとびあ2007」を開催しました。これは、湯沢・雄勝の読み聞かせグループのネットワーク(おはなし雄湯郷)を築きながら、お互いのステップアップと企画運営力、組織力の向上を図るため、グループの輪番制で開催しているものです。おはなしゆーとびあは6団体で構成されており、それぞれの団体が定例会の他、要請に応じて色々な学校、保育所、幼稚園、児童館、イベント等に出張して、お話しや読み聞かせを行っています。2007年は「みんなの森」が主導でしたが、前年に引き続き、自分たちの発表や研修だ

けではなく、それぞれに関わっている学校や児童館などの子ども達の発表と交流の場も設定し、子ども達の読書意欲の向上につながるような内容にしました。また、地域の人々への参加を呼びかけ、子ども読書支援センター相談員による講評と実演を通して、読み聞かせや読書活動の啓蒙も図りました。開催するための財源として、独立行政法人国立青少年教育振興機構の子どもゆめ基金助成金に申請し、採択されました。実行委員形式で開催までの6ヶ月間で5回の打ち合わせを重ねながら、講師、出演者、当日の内容などを役割分担しながら詰めていきました。白紙の状態からのスタートでしたので、話し合ったこととの整理と確認には十分気を遣い、連絡をこまめに行い

ました。地域には積極的に活動している団体がいくつもありますが、それぞれが個で活動するのには限界があります。それぞれの団体が線になり、面になっていくことで、お互いにエネルギーをもらい、それが深まり、高まっています。今年も「おはなしゆーとびあ2008」が11月9日に羽後町で開催されます。(絵本とあそぼの会主導)それぞれの団体が協力し合うことでよりよいものを

提供できるという「こと」を「おはなしゆーとびあ」で立証しました。今後もこのネットワークを継続していきたいです。

おはなしゆーとびあを構成している6団体

- ・お話しタイム
- ・みんなの森
- ・おはなしひまわり
- ・絵本とあそぼの会
- ・おはなしはあと
- ・お話広場「つくしんぼ」



◀「おはなしゆーとびあ2007」で本を朗読する子どもたち



▶大人も子どもと一緒に楽しみました

美の国秋田フラワーデザイン フェスティバル2008 in ユメリア 花の街づくりを目指して

場所／大仙市 西仙北めぐ森温泉 ユメリア
主催／NPO法人 フラワーデザイン普及協会

NPO法人 フラワーデザイン普及協会は(以下協会)、7月5日、大仙市西仙北めぐ森温泉ユメリアで、「美の国秋田フラワーデザインフェスティバル2008 in ユメリア」を開催しました。協会は、年齢や障害の有無などにかかわらず、誰でも自由に花の装飾を楽しむことができるユニバーサルフラワーデザインを広めようと、大仙市、社団法人日本フラワーデザイナー協会秋田県支部(以下NFD)と協働で行いました。大仙市は多数の名所・史跡や自然公園・景勝地が点在し、豊かな風土を作り上げています。これらの観光資源のネットワークや観光案内を充実させ、それに花を通して体験や交流プログラムを導入

した取り組みでした。NFDの「NFD花とデザイン援助助成金事業」に採択され、全国の花関係者に告知されました。それを受けて、協会では大仙市と協力して、全国にあるフラワーデザイン教室450校に大仙市の市勢要覧とイベント案内を配布し、宣伝広報に努めました。テーマを「山奥で創るユニバーサルデザインフェスティバル」と設定し、会場であるユメリアの裏山(黒森山)を散策しながら植物・自然物採取(折れた枝、コケ、石など)を20組40名の親子が行いました。それから自然のものを地産の花、植物と合わせ、フラワーアレンジメントの作品を制作しました。その後、全国のフラワーデザイナーを含めた参加者

100名でユニバーサルデザインワークショップを行いました。また、併催された「Web&Photo全国フラワーデザインコンクール」には全国から118点の応募があった他、ユメリアの浴場に花びらを放した「花の温泉」も好評で合計1000名の参加者で盛り上がりました。今後も毎年7月第1土曜日を開催日として恒例化し、県内外に呼びかけ全国的な

イベントとして位置づけていきます。「花文化の創造と普及」「お祭りの創造」「交流観光拠点とネットワークづくり」を3本の柱とし、花と自然を活用して明るく元気な地域づくりを行政、企業他関連機関と協働しながら進めていきます。



▶ユメリアの裏山を散策しながら採取した植物と合わせて、作品を作っている親子

▼出来上がった作品



▲ワークショップ「みんなで作ろう華の宴会場」の様子

共に創る“まち”

※共に創る、まちは、12月・2月に掲載します。

おすすめ図書

協働の強化書

「NPOと行政・企業との協働を強化するために」



編集:「協働の強化書」研究会
発行:特定非営利活動法人せんだいみやぎNPOセンター 2007年

「協働の強化書」研究会は、29人の市民・行政職員が一緒に、12回の研究例会の開催、アンケート調査の実施と分析、そして協働事例の調査を行い、事例研究を重ねました。その研究をまとめたのが「協働の強化書」NPOと行政・企業との協働を強化するために」です。本書は、「協働を検証する」「協働事例研究レポート」「アンケート調査報告」の各章から構成されて

います。検証では、協働の定義が具体的に整理されています。研究レポートでは「ここがすごい!」というコーナーで17団体の特徴を明記しています。多くの自治体が「協働」を掲げたまちづくりに取り組んでいこうとしている中で、どのような姿勢で関わっていけばいいのか?について、NPOと行政の双方にとって参考になる、お勧めの1冊です。

おすすめ図書

「ワークショップ」住民主体のまちづくりへの方法論



木下勇著 学芸出版社 2007年

会議の手法として多くの場所で「ワークショップ」が使われ始めています。まちづくりの場面でも、住民参加の方法論として使われています。しかし、「ワークショップ」はしたもの、その後の展開がなく、ただそれだけで終わってしまった、といった経験をされた方もいるのではないのでしょうか。本書はワークショップそのものへの理解不足から

生じる誤解を解くため、「ワークショップとは何か」といった本質を探ることを中心に構成されています。ワークショップの理論、歴史、実践をわかりやすく解説しています。市民活動に関わっている人、ワークショップを行う立場の人などにはおすすめの1冊です。

横手市

秋田を日本一住みよい県にする会

代表/泉谷好子さん TEL 0182-42-2130

活動ウオッチング

県南地域で活動している団体を紹介します。活動に興味を持たれた方、参加したい方は、各団体に直接お問い合わせください。

▶9月13日(土)討論会の受付で



「秋田県南地域を活性化して、まちを元気にしていこう！」と会を立ち上げ、今年度から活動を始めました。討論会「あなたも秋田を日本一住みよい県にしませんか？」を3回シ

リーズ(8月16日、9月13日、10月4日)で企画しました。開催地は、横手の十文字、湯沢の稲川、秋の宮の3か所でした。特別ゲストやパネリストを交え、参加者からも住みよい地域にするための声がたくさん出されました。
「今ある自然や素材の良さを活かしアピールしていく」「目標をもち、会話をして人間関係を深め、学び、他者を支援する」「女性の活躍の場を増やしていく」などなど。出された意見を、一人一人が少しずつ実践していくことを期待しています。文殊の知恵を出し合い、聴き合う場づくりから始めていこうと考えました。

自分ができることに目を向けて周りの人と語り合っただけで、経済が沈滞化して心の余裕がなくなり、自分のことしか見えなくなる現状を、打破していきましよう。自分の可能性を広げていくことが、街の元気につながります。

クローズアップ

冊子「百姓体験のすすめ」



●発行・問合せ先
NPO法人 はつくるペリーじゃむ
TEL 0531-34-1234

NPO法人 はつくるペリーじゃむ(事務局・愛知県田原市)は、百姓体験を通して人づくり、まちづくり・環境づくりの活動を踏まえて、冊子「百姓体験のすすめ」をまとめました。「百姓体験とは?」「百姓体験事例紹介」「百姓体験のつくり方」「百姓体験のこれまでとこれから」の章立てで構成されています。この冊子は、農山村の自然に目を向け、「いのちの循環」「農的暮らし」「自然の循環」「自分のことを自分で選択すること」を伝えながら、農業体験が広まっていくことを目指し、2007年度の農林水産省食育モデル民間団体実践活動事業の助成を受けて作成されました。
秋田県南で恵まれている自然環境を活かし、失われつつある人々の暮らしや地域でのつながりをつなぎ合わせて持続可能な循環型社会をつくるヒントを、この冊子で探してみませんか。

子どもの健全育成

制度名：平成 21 年度 子どもゆめ基金
助成金募集

対象団体：子どもの健全育成を目的として活動する団体。法人格の有無を問いません。

対象事業：

【子どもの体験活動助成】子どもを対象とする体験活動(自然体験活動、科学体験活動、社会奉仕体験活動等)及びその支援活動(指導者養成など)。

【子どもの読書活動助成】子どもを対象とする読書活動(読み聞かせ会、読書会等)およびその支援活動(合同研修や情報交流等)。

【子ども向け教材開発・普及活動助成】子どもの体験活動や読書活動を支援・補完することを目的として、インターネット等で使用可能なデジタル教材を開発・普及する活動。

助成金：

【子どもの体験活動】1件あたり2万円以上。標準額は市区町村規模の活動で50万円。

【子どもの読書活動】1件あたり2万円以上。標準額は市区町村規模の読書活動で10万円、読書支援活動の場合は50万円。

【子ども向け教材開発・普及活動】1件あたり2,000万円を限度。標準額は500万円。

応募締め切り：●子どもゆめ基金部助成課に応募の場合 12月5日

●秋田県教育委員会生涯学習課社会教育班に応募の場合 11月28日

問い合わせ：●独立行政法人国立青少年教育振興機構 子どもゆめ基金部助成課
TEL：0120-579081(フリーダイヤル)、03-5790-8117・8118
FAX：03-6407-7720

●県教育委員会生涯学習課社会教育班
TEL：018-860-5184

関連URL：

<http://yumekikin.niye.go.jp/>

福祉

制度名：平成 20 年度 秋田県赤い羽根共同募金 民間福祉団体等への活動助成(公募)

対象団体：福祉に関わる事業を行っている民間社会福祉団体・ボランティア団体・NPO法人等。

対象事業：会議費・研修費・備品・機材等の購入費・PR 資料作成費など団体の運営及び立ち上げに最低限必要な経費(但し、人件費・交通費・飲食費・消耗品等は除く)

助成金：1団体あたり70万円を上限(総事業費の80%まで助成)

応募締め切り：12月12日

問い合わせ：秋田県共同募金会 (TEL：018-864-2821 FAX：018-895-7513)または市町村共同募金会

関連URL：

<http://www.17.ocn.ne.jp/~akakita/index.html>

環境

制度名：「三井物産環境基金 2008 年度第 2 回活動助成」募集

対象団体：NPO法人、公益法人、中間法人、大学で活動実績が3年以上の団体

対象事業：国内外の地球環境問題の解決に関わる次の「実践的な活動」
①地球気候変動問題 ●水産資源の保護・食料確保 ●表土の保全・森林の保護●エネルギー問題 ●水資源の保全 ●生物多様性および生態系の保全 ●持続可能な社会構築のための調査とネットワーキング(さまざまな主体との協働)

助成金：総額最大3億円

応募締め切り：11月3日

問い合わせ：三井物産環境基金事務局
TEL：03-3285-3316

関連URL：<http://www.mitsui.co.jp/csr/fund/>

子育て

制度名：平成 21 年度(第 15 回)キリン福祉財団公募助成事業

対象団体：地域での子どもに関わる福祉活動を目的とする民間団体で、4名以上のメンバーが中心となって活動する団体・グループ。法人格の有無、活動年数は問いません。

対象事業：「地域における子育てに関わるボランティア活動」に対し助成。「子育て」は、「子育て」「子育て」「子育て」も含む広い意味での活動とします。

助成金：1件あたり30万円を上限、総額3,500万円

応募締め切り：11月10日

問い合わせ：(財)キリン福祉財団
TEL：03-5540-3522
FAX：03-5540-3525

関連URL：

<http://www.kirin.co.jp/foundation/>

障害者福祉

制度名：平成 21 年度新日本友の会助成事業

対象団体：障害者(身体および知的)の福祉に関する事業を直接営み、原則として設立後1年以上活動している団体。草の根で小規模な活動をする資金的に困難な状況にある団体・事業所が優先されます。

対象事業：建物、設備、什器備品等の有形固定資産の購入又は修繕にかかわる経費。

助成金：1件あたり30万円程度～100万円

応募締め切り：11月30日

問い合わせ：社会福祉法人 新日本友の会
TEL：03-6425-8042
FAX：03-3252-0798

関連URL：

<http://www.shinnihon-tomonokai.or.jp>

助成金情報

高齢者・障害者福祉、子育て

制度名：平成 21 年度「長寿・子育て・障害者基金助成金(地方分)」募集

対象団体：社会福祉の振興に寄与する事業を行う法人又は団体

対象事業：【高齢者・障害者福祉基金】●地域福祉・介護のネットワーク形成事業●緊急に充実を図る必要のある高齢者、障害者在宅福祉推進事業 ●高齢者、障害者の社会参加促進事業 ●民間非営利団体等による地域福祉・介護活動に関する事業

【子育て支援基金】●地域や家庭における子育て支援事業 ●青少年の非行防止・健全育成事業 ●児童虐待防止対策など要保護児童対策等事業 ●ひとり親家庭等自立支援事業

【障害者スポーツ支援基金】●障害者スポーツの育成・強化事業 ●障害者スポーツに対する意識高揚に関する事業●地域におけるスポーツを通じた障害者の社会参加の推進事業

助成金：1件あたり200万円を限度
応募締め切り：10月31日

問い合わせ：

秋田県社会福祉協議会 総務企画部
TEL：018-864-2711

FAX：018-864-2701

関連URL：

http://www.wam.go.jp/wam/gyoumu/kikinjigyoku/main_04.html

子育て

制度名：子育て家庭支援団体に対する助成活動

対象団体：就学前の子どもの保護者等(妊婦等を含む)への支援活動を行っている民間非営利のボランティアグループ・団体、NPO法人等。1年以上の活動実績を有し、少なくとも月1回以上の定例活動日を定め継続して運営していること等の要件を満たす団体。

対象事業：次の要件をすべて満たす活動が対象。●就学前の子どもの保護者等(妊婦等を含む)に対する支援活動 ●利用者を限定せず、地域の保護者等の参加が可能な活動 ●国内での活動(例：育児勉強会の開催、子育て情報誌の発行、親子の集い・情報交換の場の提供、事業等を行う際の一時的かり等)

助成金：1団体あたり25万円を上限、総額(最大)1,400万円

応募締め切り：11月14日

問い合わせ：生命保険協会「子育て家庭支援団体に対する助成活動」事務局
TEL：03-3286-2643

FAX：03-3286-2730

関連URL：<http://www.selha.or.jp/>



10/25 大仙昔っこの集い

秋田弁で昔っこを語ります。

日時：10月25日(土) 13:30～15:30

場所：大仙市 県立農業科学館 映像ホール

主催・問合せ：大仙民話の会 TEL：0187-65-2920

10/25 第1回CSRセミナー 「地元企業のCSRを考える ～CSRは何のため?～」

日時：10月25日(土) 13:00～17:00

場所：秋田市 遊学舎

内容：基調講演「地元企業のCSR」

講師 武内伸文さん(SiNG 代表)

事例発表・パネルディスカッション

参加費：無料

主催・問合せ：NPO法人 あきたパートナーシップ

TEL：018-829-5805

10/25 平成20年度 第1回『秋田かわまち楽習会』

全国的なかかわまちづくりのワークショップ取り組み事例の紹介などを行います。

日時：10月25日(土) 13:30～16:00

場所：秋田公立美術工芸短期大学 大学開放センター
アトリエももさだ 多目的ホール

内容：話題提供(全国事例の紹介、ワークショップの展開について)

講師：桑子 敏雄さん(東京工業大学教授)

主催・問合せ：秋田地区かわまちづくり懇談会事務局

TEL：018-864-2288 FAX：018-864-5204

<http://www.thr.mlit.go.jp/akita/kasen/kawamachi/kawamachi.html>

10/31 地域づくり自主ゼミ・第2回

消費税をあげる前にできること。「農業用水工事をめぐる無駄」をなくせば300億円の県民負担が減り、福祉や教育の充実へ。

日時：10月31日(金)13:30～16:00

場所：秋田県南部男女共同参画センター

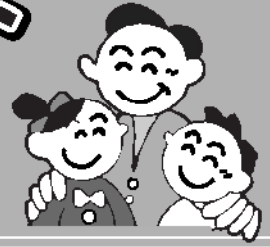
参加費：100円(資料代として)

主催・問合せ：成瀬の水とダムを考える会

TEL：0182-42-2311

E-mail：pum237@ybb.ne.jp

イベント 情報



10/18・11/8・11/22

政策提言をしよう！ みんなでつくる環境政策

環境政策の策定をワークショップ形式でつくりあげていきます。

日時：第1回 10月18日(土) 13:30～16:30

第2回 11月8日(土) 13:00～16:00

第3回 11月22日(土) 13:00～16:00

場所：秋田市拠点センターアルヴェ

内容：環境政策提言についての解説、テーマ設定、グループワーク、提言書作成など。

参加費：無料

主催：環境省東北環境パートナーシップオフィス(EPO東北)予定
消費生活実践グループ in 秋田

問合せ：消費生活実践グループ in 秋田

TEL&FAX：018-835-2751

10/22 平成20年度 障害者ふれあいスポーツの集い

第4回フライングディスクで遊ぼう

日時：10月22日(水) 10:00～13:15

場所：湯沢市健康ドーム

参加者：障害をもつ方、支援員、家族ならびに一般の方。

主催・問合せ：NPO法人 サポートセンター・ピーニング

TEL&FAX：0183-52-3596

10/25 平成20年度 第3回ミュージアムコンサート

聖霊高校ハンドベル部～ミュージアムで、ふれあいコンサート

日時：10月25日(土) 14:00～14:30

場所：横手市 秋田県立近代美術館 5階中央ホール

内容：聖霊高校ハンドベル部による演奏 入場料：無料

主催・問合せ：秋田県立近代美術館(担当：小笠原)

TEL：0182-33-8855 FAX：0182-33-8858

コラム
**県南弁
 ゼミナール**



③6 「わしら」の巻

「わっちら」とも言っつ。「いたずら」「悪さ」の意。「わるさ」が音位転倒して、「わしら」になったという。まさに言葉は生きものである。子どもの遊び言葉に「わしらっ」があり、これは「うそっ」と同じ意に使われている。例えば、子ども達が少人数でおはじきの取りっこをする場合、「ほんとっ」か「うそっ」(町村によっては「わしらっ」)かを決めてから遊び始めるのである。「ほんとっ」の場合は真剣にやり、「わしらっ」の時は気がぬくことが出来たと思う。こんな遊びを通して人生の呼吸のようなものを少しずつ学んでいたのだろうか。「うそっ」と決まれば、のびのびと技を研究して遊んでいたように思う。

いつもの川柳まがいでまとめると
 ○ほんとっこの 真剣勝負 夢にみる
 ○わしらっこので カビ食べさせて

知らん顔

湯沢市在住 「全道輪っパルーゆきむ」 湯澤編纂 佐藤伊世子

編集後記

きれいに刈られた田んぼで遊ぶ子どもたちの姿を見たのはいつ頃だったかなあと懐かしがっています。少子化の影響で子どもたちの声が少ない中、最近元気に遊ぶ姿を見てほっとしています。陰ながら見守っていききたいものです。(AKKO)

紅葉の見ごろが、北から南へ、山から里へと移り変わる季節です。季節の花を生けたくて、花材を探します。もみじ、ななかまどの実、栗、すすき、けいとう、菊など。色づいた野山の装いを器に再現しながら、自然に感謝!です。(こまつ)

芸術の秋です。先日、市民文化祭に行ってきました。素晴らしい作品ばかりでした。どのかたも、忙しい毎日の中で努力を積み重ね、作りあげたのだろうと思われます。多くの芸術にふれ、パワーをもらった1日でした。(たけ)

秋田県市民活動情報ネット

<http://www.akita-kenmin.jp/npo/index2.asp>

秋田県のボランティアや市民活動などに関する情報や話題をみなさんのもとへお届けしています。登録していただくと団体のプロフィールや目的、事業などを紹介できます。ご希望の方には各地区の情報誌をお送りします。情報誌のダウンロードもできます。

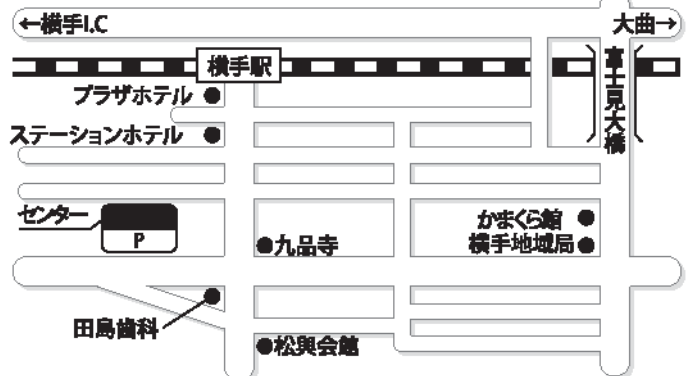
南部市民活動サポートセンター

秋田県南部男女共同参画センターに併設しています。どなたでもお気軽にお立ち寄りください。

相談時間 午前9時～午後6時(月～水・金曜日)
 午前9時～午後5時(土曜日)
 木曜日・年末年始(12/29～1/3)は休館

TEL.0182-33-7002 FAX.0182-33-7038

E-mail:ssc7002@luck.ocn.ne.jp



当センターは秋田県から委託を受けて、特定非営利活動法人秋田県南NPOセンターが運営しております。

ボランティア・NPOニュース 県南版 はんさん10月号
 2008年10月15日発行

発行:秋田県生活環境文化部地域活動支援室
 〒010-8570 秋田市山王四丁目1-1
 TEL:018-860-1520

編集:特定非営利活動法人 秋田県南NPOセンター
 〒013-0046 横手市神明町1-9
 (南部市民活動サポートセンター)
 TEL:0182-33-7002 FAX:0182-33-7038

この印刷物は1,600部作成し、印刷経費は1部あたり27円です。



募集情報



◆JICA(国際協力機構)青年海外協力隊・シニア海外ボランティア・日系社会(中南米派遣)ボランティア募集説明会

日時:①10月24日(金) 18:30~20:30

②10月28日(火) 19:00~21:00

場所:①湯沢生涯学習センター(湯沢市)

②かまくら館(横手市)

内容:地域在住の経験者たちが活動を紹介しながらご相談に応じます。興味がある、話だけでも聞きたい、という方はぜひお気軽にご参加ください。

主催・問合せ:青年海外協力隊秋田県OB会事務局

TEL:018-864-1181(JICA秋田デスク樋口・山谷)

◆ボランティア・市民活動や地域づくり活動を支援します

【ボランティア資金】

①調査・研究事業 ②器材整備事業…対象経費の2/3で上限10万円

【元気あきた資金】

イベント等開催支援…対象経費1/3で上限80万円

講演会・学習等開催支援…対象経費5/4で上限20万円

問合せ:県平鹿地域振興局地域企画課

TEL:0182-32-0594



キャッチボール・ボード

読者の皆さんと編集部、もしくは読者の皆さん同士が、「はんさん」紙面や普段の活動から感じていることを伝え合うコーナーです。あなたが伝えたいことを、是非、お寄せ下さい。

いつも「はんさん」のご送付をいただきありがとうございます。9月もうれしく拝見しました。何かしら元気の素をいつもちょうだいいたしておりますが、コラムのユーモアにも風土のすばらしさを感じます。おいそがしい毎日と存じますが、おからだ大切にお願いします。(仙台市 Sさん)

はんさんVOL.35ありがとうございます。楽しませていただいております。自分の足では見聞きすることが加齢と共に思うにまかせないで、せめて県南の情報等が何よりの便利になっています。若い時のように「ほろけられない」からかな。また次回をお待ち申し上げます。(由利本荘市 Aさん)

お寄せ下さい! イベント情報掲載記事を募集しています。

○県南のボランティアイベント情報のコーナー

イベントタイトル/開催日時/会場/問い合わせ先/申込先・場所・電話・FAX/内容など100字程度でチラシがあれば一揃にお送り下さい。また、皆様のご意見、ご感想もいただければ幸いです。(次号は11月20日以降の情報です。)

〒013-0046 横手市神明町1-9 南部市民活動サポートセンター「はんさん」編集部 TEL.0182-33-7002 FAX.0182-33-7038 E-mail:ssc7002@luck.ocn.ne.jp

10/31~11/1 ファシリテーター養成講座

参加者の思いと主体性を引き出し、各自が抱える課題を解決していく技能を取得する人材養成講座です。

日時:10月31日(金) 10:00~17:00

11月1日(土) 9:00~12:00

場所:秋田県南部男女共同参画センター

講師:森 良さん(NPO 法人 エコ・コミュニケーションセンター 代表)

主催:NPO 法人 秋田県南NPOセンター

問合せ:南部市民活動サポートセンター

TEL:0182-33-7002 FAX:0182-33-7038

11/9 おはなしゆーとびあ2008

湯沢・雄勝地域で、読み聞かせ活動をしているグループの読み聞かせ会です。

日時:11月9日(日) 13:00~15:30

場所:羽後町 西馬音内盆踊り会館 入場:無料

主催・問合せ:絵本とあそびの会

TEL&FAX:0183-62-1222(五十嵐)

11/14 再就職準備セミナー

再就職に必要な基礎知識を習得し、スムーズな就職活動にそなえるためのセミナーです。

日時:11月14日(金) 9:45~12:30

場所:秋田県南部男女共同参画センター

内容:講話:仮題「楽しくライフデザイン」

講師:藤内聖子さん(産業カウンセラー)

(他に社会労務士による保険・年金・税金の話もあります。)

主催:(財)21世紀職業財団

問合せ:秋田県南部男女共同参画センター

TEL:0182-33-7018 FAX:0182-33-7038

*13:30~は希望者を対象にグループ面談もあります。

11/15 「よこての食べ方」 ~映画「いのちの食べ方」上演会~

日時:11月15日(土) 12:00~

場所:横手市 かまくら館

内容:・「いのちの食べ方」上演会 ①14:00~ ②18:00~

・横手・東京・日本自給率弁当展示・販売等

料金:前売り 大人 800円

当日券 大人 1200円 大学生以下 500円

主催・問合せ:「よこての食べ方」実行委員会

TEL:090-2609-8103(和泉)